

(様式例)

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業内容に精選により、生徒の興味・関心を深め、主体的に学習する生徒が増えた。
- ・授業の学習課題を明確にし、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ・ペアワーク・グループワークを取り入れ、他者との関わりの中で自分の意見を表現して自分の考えを広げることができた。

(2) 課題

- ・生徒によって知識・技能の定着に差がある。
- ・地図、年表、雨温図、統計など様々な資料を観る視点の習得が不十分で資料の読み取りを苦手とする生徒が一定数いる。
- ・自分の意見を言語化することを苦手とする生徒が一定数いる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値、区の平均、全国の平均ともに下回っている。特に「思考・判断表現」の値が低い傾向にある。		
第2学年	達成率は、全国・区ともに上回っている。	達成率は、全国・区ともに上回っている。	
第3学年	目標値、全国平均ともに下回っているが、区の数値の方は、上回っている。	達成率は上回っている。 (第2学年時)	達成率は上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を上回っているが、全国の平均は下回っている。	区の平均、全国の平均よりも下回っている。	区の平均、全国の平均よりも下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
達成率は、全国・区ともに上回っている。	達成率は、全国・区ともに上回っている。	達成率は、全国・区ともに上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均とともに下回っているが、区の数値の方は、上回っている。	すべてにおいて下回っている。	全国平均とともに下回っているが、区の数値の方は、上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的分野・地理的分野ともに知識・技能を伸ばしていく必要がある。 授業内容の要点をまとめ、授業内で定着させるべき知識や技能を明確にする。また、単元ごとに小テストを実施し自分の苦手とする分野を明らかにして学習内容の定着につなげていく。 単元ごとに授業の振り返りシートを使い、授業の中で何を学び・身に付けたのか確認する活動を設ける。	歴史的分野・地理的分野ともに思考・判断・表現を伸ばしていく必要がある。 記述式や知識を活用する問題に対して苦手意識を持っている生徒が分析で判明したので、授業内で資料を観る視点を指導して、その視点をを用いて資料の読み取りする活動を設ける。また、考えたことを表現する機会を設け、思考・判断・表現力を伸ばしていく。	授業で達成すべき目標を提示す。単元ごとに授業の振り返りシートを使い、授業の中で何を学び・身に付けたのか確認する活動を設ける。 また、学習内容に対して疑問に思っていること、興味を持ったことなど調べまとめる活動を取り入れ、学習内容と現在の自分の生活している世界とを結びつけて、主体的に学ぶ機会を設ける。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っているが、単元によって理解度に差があるため、全ての基本となる、基礎的な知識の定着のため、反復学習を中心に、授業展開の改善を行う。	目標値を上回っているため、引き続き資料活用の問題や記述式の問いを授業内で設定する。	各授業の目標に対して、授業の最後に自己評価を行う。積極的に取り組んでいる姿勢を評価し、主体的に学習に取り組む態度を養う。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会科の学習の根幹である。正しい知識の定着という点で、結果が出ていないことは事実なので、改めて復習テストなどの活用により、知識の定着に努める。	本学年の最大の弱点が、資料を活用した思考・判断・表現の観点の正答率である。試行錯誤しながら学習を進めているが、結果が出ていない以上、さらに改善しなくてはならない。	教科に取り組む姿勢については悪い状況ではないと考えるが、数値的にはギリギリである。今後も、工夫を重ねていきたい。